



かたくい



令和2年度
第6号

学校教育目標

夢ふくらませ 心かがやく

2020.5.26

地震の時に大切なのは……。－避難訓練（地震）から－



5月26日は、秋田県民防災の日です。本校では、先週、地震を想定した避難訓練を行いました。日本は、地震の多い国であり、いつ・どこで地震が起きるか分からない状況にあります。現に37年前には、秋田県沖を震源地とする日本海中部地震が起こり、当時、日本海側では起こらないといわれていた津波が発生し、多くの人たちが命を失いました。



学校で行う避難訓練は、子どもたちが地震から命を守る訓練であり、今後の生活の中で、その知識や体験が生かされることにつながる重要な行事です。当日は、教室や体育館で授業をしている際に地震が発生したという想定のもと、訓練を実施しました。子どもたちは「おかしも（おさない・かけない・しゃべらない・もどらない）」の約束を守り、体育館（当日が雨天であったため）に避難しました。



ふり返りの会では、校長から次の2点について話をしました。

- ①自分や身近な人たちの命を守るための練習なので、今回のように真剣に取り組むことが大切であること。
- ②「しゃべらない」で行動することは、不安な気持ちに影響されることなく、周りの状況を知ったり大人の指示を聞いたりすることにつながり、正しい判断ができるようになること。

子どもたちは、終始真剣な態度で避難訓練に取り組んでくれました。いざという時に、避難訓練のことを思い出し、自分や身近な人たちの命を守る行動をしてくれることを望んでいます。

～子どもたちの感想から～

2年 T.Mさん

今日のひなんくんれんで、「おかしも」のやくそくをまもることや自分のみをまもることをこうちょう先生がおしえてくれたので、これからも、この2つをがんばりたいと思いました。

2年 K.Oさん

じしんのほうそうのときしゃべらないでこうどうできました。「おかしも」のやくそくをまもれました。「おさない」こともわかりました。

2年 Y.Rさん

じしんがおきたら、しゃべらないことがたいせつだとわかりました。校長先生のおはなしをよくきけてよかったです。

4年 S.Tさん

ちゃんとしずかにして、一番安全な場所にいたらいいと分かりました。あと、自分で自分の身を守ることができました。もし、本当にじしんが起こったら、今日やった事を生かしたいと思いました。

4年 S.Mさん

私は、校長先生のお話にもあった「真剣に避難訓練に参加する」ということが大切だと分かりました。次からは、校長先生も言った通り、「なぜしゃべらないことが大切なのか」を考えながら、避難訓練に参加したいです。

－秋田県防災の日

1983年（昭和58年）の5月26日正午ごろ、能代市西方沖80kmの地点で、日本海中部地震（マグニチュード7.7）が発生しました。最大震度は、秋田市で震度5でしたが、秋田県・青森県・山形県の日本海側で10mを超える津波が発生。100人が津波による犠牲（遠足で男鹿市加茂青砂を訪れていた、合川南小学校の13名の児童も含まれる。）となりました。